

この本の効果的な使い方

この『実力完成問題集 国語』は、中学入試を半年後に控えた六年生が、自分の弱点を補強して領域別に総復習し、実力を完成させるための「文章読解問題集」です。自分の弱い領域、分野を集中的に学習するための教材として単独でも使用できますし、『予習シリーズ六年下』の各回の〈文章読解〉の単元に対応していますから、従来の『演習問題集』と同じように使用することもできます。

文章、および問題のレベルは、『予習シリーズ』とほぼ同じレベルですから、『予習シリーズ』の学習を終えて、無理なく取り組みます。

効果的な学習方法は、基本的には『予習シリーズ』とかわりませんが、〈文章読解〉が不得意な場合と得意な場合に分けてアドバイスをしておきます。

◎ 〈文章読解〉が不得意な場合の学習方法

文章内容の正確な理解が成立していれば、ほとんどの問いに答えられるはずですが。一字一字、一語一語、一文一文の正確な理解から、文章全体の正確な理解への道が始まることを忘れずに、〈精読〉型学習を進めてください。

1 『予習シリーズ』・学習課題の解説を再読する 各回の学習課題の解説には、文章の〈読み方〉の基本が説明されています。〈読み方〉の手順や注意の配り方などの基本ルールを確認しておきましょう。

2 文章を最低三回音読する 音読によって、読めない漢字や熟語、意味のわからない語句や表現などを発見し、まず、字面（じづら）で〈読める〉〈わかる〉状態をつくり直します。

3 文章内容の正確な理解を成立させる 辞書・事典を調べたり、身近な大人に質問したりして、語句の意味から文章内容まで、可能な限り正確な理解を成立させます。

4 問いに答えることで理解を確認する 〈問い〉に対する〈答え〉そのもの、あるいは〈答え〉を導くためのヒントは、すべて文章中にあります。問われた内容に対応する部分なり表現なりが、文章中のどこに書かれているかを発見することが、文章読解問題を解く基本作業です。

5 くわしい「解答と解説」を読んで理解を深める ×だった問題を大事にしましょう。解説をヒントに読み直し、考え直し、解き直す——自分の弱点克服の出発点がここにあります。「急がば回れ」——一つの文章を可能な限り正確に深く理解しようとする〈精読〉型学習を通じて〈ことばの力〉を育てることが、確かな読解力・思考力・表現力を結実させるものと考えます。

◎ 〈文章読解〉が得意な場合の学習方法

〈文章読解〉の学習の基本は、不得意な生徒の場合と同じですが、1・2は省略し、辞書を片手に3・4を同時に進め、二十分〜三十分程度で集中して問題を解く〈演習〉型学習をしたらうえて、じゅうぶん時間をとって5の検討作業、解き直しをします。結果に応じて、1・2・3段階の点検をするといいでしう。

目次

第1回	説明文・論説文の読み方(1)	4
第2回	説明文・論説文の読み方(2)	8
第3回	物語・小説の読み方(1)	11
第4回	物語・小説の読み方(2)	16
第5回	物語・小説の読み方(3)	20
第6回	随筆文 <small>ずいひつぶん</small> の読み方(1)	24
第7回	随筆文の読み方(2)	28
第8回	詩・短歌・俳句の読み方	31
第9回	説明文・論説文のまとめ	35
第10回	物語・小説のまとめ	39
第11回	随筆文のまとめ	44
第12回	文章読解のまとめ	48
第13回	入試直前総合問題(1)	53
第14回	入試直前総合問題(2)	57
解答と解説		61

第1回 説明文・論説文の読み方①

◆次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(1)～(12)は、形式段落の番号を示します。

① 縁は、まことに異なるものがあり、味なものがある。

② ここにいう縁とは、住まいの縁、1 縁側や ※ ぬれ縁などのことである。このような縁があることによつて、日本の住宅は、その

A な狭さにもかかわらず、B な狭さをあまり感じないですむ。座敷から、明かり障子と縁側のガラス障子をおして見る庭、
それは、室内の落ち着きの中に、四季の変化を楽しむ、日本の住ま

いの最も優れた生活空間の一つの場面だ。また、縁側の障子を明け放てば、座敷と庭は、縁を挟んでひと続きのものとなる。夏の午後など、縁側で涼風を受けながら、うたた寝していると、庭の木陰で昼寝をしているのと、同じような気分になろう。

③ 縁を異なるもの、と言うのは、2、(2)※ 軒下のぬれ縁などが、いったい内部空間(戸内)なのか、外部空間(戸外)なのか、判

然としない、というところにある。

④ ぬれ縁は、部屋から見れば、ガラス障子の外にある風の吹きさらしの所だから、外部空間と見なされる。3、外から見ると、4 板敷き

こは、軒下にあつて一応屋根や庇もかかつており、4 板敷きの床もあるのだから、純然たる戸外空間とはみなしにくい。建築の内部空間ではないにしても、せめてその附属空間である、というぐらゐのことは言えそうである。あるいは、建築の構成から言うと、屋根があつて壁がない庭にある東屋だとか、壁があつて屋根がない

ヨーロッパの広場だとかいうように、少しずつ何か欠けた「半建築」の一種と言つてもいいものだろう。

⑤ また、ガラス障子の内側にある縁は、通常縁側などと呼ばれるが、日本建築の感覚では、ここは室内空間ではないのである。ガラス障子のなかった昔は、この縁側には障子を立てず、台風とか大雪の時には、外から戸板をはめ込んで防ぐ以外は、普段は吹きさらしのままであつたものが多い。今でも田舎へ行くと、そういう農家を数多く見かけることだろう。

⑥ そこで、こういう外部空間でもなければ内部空間でもない、いわば (3) コウモリのような異空間であるぬれ縁や縁側などを、一部の建築家の間では、「つなぎの空間」とか「第三の空間」などというように呼んで、純然たる内部空間や外部空間と区別しているのである。

⑦ 一方、味な空間というのは、初めに述べたように、室内と庭とを視覚的、心理的に、時にはつなぎ、時には切り離す、異種の (4) 空間の「連結器」のような役割をもっていることをさすが、それは単に、視覚や心理にとどまらず、(5) 時には機能的、行動的にも、つなぎの空間としての意味を持っている。

⑧ 私の家の近所の (6) おばあさんの話を例に引こうだ。おばあさんは、息子夫婦が建てた明るい洋風の ※ モダンリビングに住んでいる。ところが、このモダンリビングには、縁側がない。そこでおばあさんは言う。昔の家には皆縁側があつたので、年寄り縁側に座つて、針仕事をしたり、孫のお守りをしたり、また庭に出入りしたりして、一日を過ごすことができた。更に縁側に座っていると、通りがかりの人々の様子をよく見ることができた。近所の人ともあいさつできるし、たまには、縁側に腰かけて話し込んでいってもく

れる。雨が降れば障子を閉めればよし、お天気になれば障子を開け
 たまま昼寝をすることもできる。縁側は年寄りにとって安全で、
 しかも、快適な場所だった。そういう縁側が新しい家からなくなっ
 たということは、いくら便利なモダンリビングでも、年寄りにと
 つては、不便で、味気ないものだ。では外へ出ればよい、と言われ
 るかもしれないが、たとえ近所の公園へ行くにも、女はいちいち着
 替えをしなければならず、気軽には出歩けない。それに昔と違って、
 通りは自動車が増えてきたために怖いし、また歩道橋みたいなもの
 を渡らなければならぬかと思うと、気が重い。息子は、家の中に
 いるようにと、テレビを買ってくれたが、テレビでは話ができな
 い、と。そう語るおばあさんは、寂しそうであった。

9 (7) ここで私たちは、反省をしてみなくてはならないだろう。年寄

りにとって、いったい現代文明とは何であろうか。少なくとも、縁
 側のないアメリカ式のモダンリビングは、日本の年寄りにはあま
 りありがたくないようだ。(8) それは、老人だけではない。主婦にと
 つても小さい子供にとつても、たまの休みに家にいる亭主にとつて
 も、庭続きの縁側は、気持ちよくありがたいものだろう。それがな
 い日本の現代の住まいは、確かに(9) 味気ない生活になりつつある。

10 縁は、ふちとも呼ばれるように、もともとは、昔の中国服の袖や裾

に付いているびらびらした「縁飾り」のことをさして言ったもので
 ある。服の袖や裾に縁飾りを付けるには、幾つかの理由がある。一
 つは、着物の系がほつれてくるのを防ぐための、縫い取りを兼ねた
 「隅押さえ」であるということ。第二に、着物の端部の擦り切れの
 「C」ど、更に擦り切れた時に、新しいものと取り替えのきく「互
 換品」としての意味を持つ。畳のへりもそれで、それは実際消耗品

として取り扱われている。そして第三に、縁飾りと言われるとおり、
 それは着物の「飾り」でもある。畳のへりも、昔、いろいろに模様
 の入ったものが使われていたのである。

11 この着物や畳における縁の機能を、日本の住まいに置き換えてみ
 ると、同じようなことが言える。すなわち、木や紙、畳という柔ら
 かい材料で造られた日本の住まいの外周を、それは「C」してい
 るのである。もし縁がなければ、開放的な日本の住まいでは、雨や
 直射日光が直接室内に入り込んできて、畳や障子、土壁などを傷め
 つけるであろう。日本の住まいが柔らかい材料でできているとい
 うことと、開放性を持つということとを前提とすれば、「D」に
 いても、縁は欠かせないものである。そしてそれは、また「遊びの空間」
 としても重要だ。座敷が格式的な空間なら、縁は格式にとらわれ
 ない自由な空間である。そこには床の間もなければ、額もない。し
 たがって上席も下席もない。座敷で宴が始まる前、あるいは宴が
 終わった後に、人々が自由に「E」場所なのである。

12 何百年の間、日本の風土と社会の中にはぐくまれてきた伝統的な

生活空間の数々を、新しい機械文明の前に、ただ古くさいからとい
 って、よく考えもせずに葬り去ってしまった例を、私たちの周
 囲に多く見かけるが、縁もまた、そのようなケースの一つではない
 か。

(上田篤「日本人とすまい」より)

※ぬれ縁……雨戸の外にあるはばのせまい縁側。

※軒……屋根の下端の張り出た部分。

※判然……はっきりとよくわかること。

※庇……窓・縁などの上部に張り出した小さな屋根。

※モダンリビング……ここでは「近代住宅」程度の意味である。

※格式的……「礼儀・作法を重視した」、または「かしまった」の意味。本

来「格式」とは、礼儀・作法のこと。

※宴……「えん」とも読む。ここでは、昔から行われている行事として、あるいは大切な人をもてなすために、決まった方法で行われる宴会のこと。

問一 1 4 にあてはまる言葉をそれぞれ次から選び、記号で答えなさい。

ア また イ すなわち ウ しかし エ た例えば

問二 A E について、次の問いに答えなさい。

① A B にあてはまる言葉として、最もよい組み合わせ

せを次から選び、記号で答えなさい。

ア A内部的・B外部的 イ A物理的・B心理的
ウ A視覚的・B実際の エ A伝統的・B近代的

② C E にあてはまる言葉をそれぞれ次から選び、記号で答えなさい。

C ア 補修 イ 補足 ウ 補強 エ 補給

D ア 視覚的 イ 行動的 ウ 心理的

エ 物理的

E ア まどろむ イ むらがる ウ くつろぐ

エ たわむれる

問三 文章中には次の一文が抜けています。どの形式段落のあとにも

どせばいいですか。もどす直前の五字を抜き出して答えなさい。

つまり縁側は、もう庭なのである。

問四 — 線(1)「縁は、まことに異なるものがあり、味なものがある」というのは、「縁は異なるもの味なもの」という慣用句に基づいてい

ます。この慣用句の意味として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 人と人との関係はそれぞれに違いがあってもおもしろいものだ。
イ 人と人との結びつきは人生の特別の経験で味わい深いものだ。
ウ 人と人との関わりは度を越すと後味がよくないものになる。
エ 人と人との結びつきは思いがけず不思議でおもしろいものだ。

問五 — 線(2)「軒下のぬれ縁などが判然としない」とありますが、

なぜ「内部空間なのか、外部空間なのか、判然としない」のですか。文章中の言葉を使って説明しなさい。

問六 — 線(3)「コウモリのような異空間であるぬれ縁や縁側」とあ

りますが、「ぬれ縁や縁側」を「コウモリ」にたとえたのは、どのような意味からですか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア どちらであるかはっきりしないものという意味から。
イ いかにも無気味で暗い感じがするという意味から。

ウ ニつの面を状況に応じて使い分けるといいう意味から。
エ ニつの役割を同時にこなせるという意味から。

問七 — 線(4)「空間の『連結器』」とありますが、「連結器」とはどのようなものですか。そのことをうまく説明している一文をこれより前からさがし、はじめの五字を抜き出して答えなさい。

問八 — 線(5)「時には機能的、行動的にも、つなぎの空間としての意味を持っている」とありますが、「縁」が、機能的、行動的にもつなぎの空間としての意味を持っていることを、おばあさんの話から具体的な例をあげて説明しなさい。

問九 — 線(6)「おばあさんの話」とありますが、そのなかでおばあさんが一番うったえたいことはどんなことですか。次の□にあてはまる言葉をそれぞれ文章中から十〜十五字でさがし、抜き出して答えなさい。

年寄りにとって縁側は□であり、それがなくなるのは□である。

問十 — 線(7)「ここで私たちは何であろうか」とありますが、筆者は「現代文明」についてどのようなことを「反省」しなければならぬと言っていますか。次の□にあてはまる部分を文章中からさがし、はじめと終わりの五字を抜き出して答えなさい。

□ことを反省しなくてはならない。

問十一 — 線(8)「それ」が指していることを、文章中の言葉を使って三十五字以内で答えなさい。

問十二 — 線(9)「味気ない生活になりつつある」とありますが、それはなぜですか。次の□にあてはまる言葉を文章中から漢字二字でさがし、抜き出して答えなさい。

現代の日本人が表面的な□さを求め過ぎたから。

問十三 この文章を四つの部分に分けると、どの分け方がいいですか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12
- イ 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12
- ウ 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12
- エ 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12

○出典：上田篤「日本人とすまい」より

筆者は、文明化とともにすたれていった「縁」を取り上げてきている。現代の日本人は、アメリカ式のモダンリビングを便利だと思って求めてきた結果、新しい家から伝統的な生活空間である「縁側」をなくしてしまった。そのため日本の現代の住まいは、味気ない生活になりつつある。現代文明が便利だからといって、長い時間をかけてつちかってきた生活の知恵をただ古くさいからという理由で捨て去っていいのだろうか、と現代の日本人に反省をうながしています。こうした筆者の主張をしっかりと読み取ることが大切です。

問一 1：前で取り上げた「住まいの縁」を、後で「縁側やぬれ縁などのこと」と別の言葉で言い換えています。↓「詳説・換言（すなわち）」。

2：「縁を異なるもの、と言う」ことの例として、この後に「軒下のぬれ縁などが、いったい内部空間なのか、外部空間なのか、判断としない」ということを挙げています。↓「例示（たとえば）」。

3：前での「ぬれ縁は、部屋から見れば、……外部空間と見なされる」と、後での「（ぬれ縁は、）外から見ると、……戸外空間とはみなしにくい」とでは、内容が逆になっています。↓「逆接（しかし）」。

4：前で取り上げた「屋根や庇もかかっており」と、後で取り上げている「板敷きの床もある」を並べています。↓「並立（また）」。

問二 ① 縁があることによって、日本の住宅は、A「実際の家の面積（＝物理的）」は狭いが、B「気分的（＝心理的）」にはあまり狭さを感じないですむということです。

② C：服の縁飾りには、着物の端部の擦り切れを防ぐ目的が、また、

住まいの縁にも、柔らかい材料で造られた住まいが傷むのを防ぐ目的があるので、から、「弱いところに手を加えて、じょうぶにする」という意味の「補強」が適切です。「補修」は、「傷んだりこわれたりした部分をつくらうこと」ですから、あてはまりません。

D：ここでの「縁」の役目は、雨や直射日光が直接室内に入り込んでくる開放的な構造をもち、傷みやすい柔らかい材料で造られた住まいを守ることで、から、「縁」は、日本の住まいにとって「物理的」に欠かせないものなのです。

E：格式的な空間である「座敷」と、格式にとられない自由な空間である「縁」が対比して述べられている点に着目して考えましょう。「縁」は、「自由」な「遊びの空間」だと言っているのですから、礼儀作法を重んじて、かたくなるしく振る舞う必要のある宴の前後に、人々はゆったりと休んだり、楽しく話を交わしたりしたことでしよう。こうした意味合いの言葉を「くつろぐ」といいます。

問三 脱文の初めにある「換言」の働きをする「つまり」という接続語に着目します。直後に、「縁側は、庭なのである」とまとめていますから、この前には、これと同じような内容のことが説明されているはずと見当をつけ、各段落の終わりの方で述べられていることをていねいに調べます。すると、②段落の終わりに、「……縁側で……うたた寝していると、庭の木陰で昼寝をしているのと、同じような気分になろう」と述べられているのが発見できます。

問四 本来の慣用句における「縁」の意味は、「運命として、前から決まっているめぐり合わせ・人と人とのつながりや関係」ということ。「異なるもの」とは「不思議なもの」、「味なもの」とは「おもしろいもの」

ということですが。普通は、男と女の結びつきについて言う言葉です。つまり、男と女は、どこでどう結ばれるかわからず不思議なものであり、またおもしろいものだ、ということですが。

問五 「ぬれ縁」が「内部空間」とも「外部空間」ともつかない立場であることを、——線部後の④段落で説明していますから、しっかりと読み取って整理してみましよう。

部屋から見た場合 ↓ 外部空間（吹きさらしの所）

外から見た場合 ↓ 附属空間 || 建物の一部（屋根・庇・板敷きの床）

純粹に外部空間とも内部空間とも言えない。

以上をもとに、まとめればいいのです。⑥段落の初めに書かれてある「外部空間でもなければ内部空間でもない……ぬれ縁や縁側」の部分もまとめ際のヒントになりますね。

問六 「ぬれ縁や縁側」と「コウモリ」との共通性をつかまなくてはけません。「ぬれ縁や縁側」は、「外部空間でもなければ内部空間でもない」とあるように、どちらともはっきりしていませんね。「コウモリ」は、鳥のところでは、鳥の仲間のような顔をし、けものところでは、けもの仲間のような顔をするという話から、「コウモリ」には、どちらともはっきりしないものという意味があるのです。ここで「コウモリ」が「ぬれ縁や縁側」のたとえとして使われているのは、そうした意味からなのです。

問七 まず、直前に着目し、「ぬれ縁や縁側」の「空間の『連結器』」としての役割とは、「室内と庭とを、……時にはつなぎ、時には切り離す」ことであることを読み取りましよう。そこで、「縁側」が「室内と庭」を、つないでいる、ことが述べられているところを、「これ

より前から」ていねいにさがします。②段落に、「また、縁側の障子を開け放せば、座敷と庭は、縁を挟んでひと続きのものとなる」とあります。

問八 「機能」とは、ここでは、「縁側」の持つ「働きや役割」ぐらいの意味です。⑧段落で述べられている「おばあさんの話」の中で、「縁」が、働きのうえででも行動のうえでもつなぎの空間としての意味を持つていることが述べられているのは、「年寄り縁側は座って昼寝することもできる（41〜47行め）」の部分です。この範囲から、具体的な事例を取り上げ、整理してみましよう。

① 縁側で、針仕事や孫のお守りをしたり、庭に出入りしたりできる。

通りがかりの人々の様子を見ることができ、近所の人とあいさつできる。

（近所の人）縁側に腰かけて話し込んでいく。

② 縁側で、外部の人々の様子を見ることができ、近所の人ともふれあうことができる。

雨が降れば障子を閉め、お天気になれば障子を開けたまま昼寝ができる。

③ 縁側は、天気次第で、内と外を切り離したりつないだりできる。以上から、①・②・③をつないでまとめます。

問九 おばあさんは、「縁側」についてどう思っているのかを、⑧段落の「おばあさんの話」から読み取りましよう。問八でも調べたように、おばあさんにとっては、「縁側」は、便利でいいものなのです。そ

ここで、おばあさんの話の中から、縁側の便利でよい点を、具体例ではなく、一般的にまとめて述べられている語句をさがします。

こうした問題では、□の前の「年寄りにとって縁側は」とか「それ(縁側)がなくなるのは」とかと同じようなことを言っているところ、あるいは、それと同じような表現が使われているところを本文中からさがしてみると、答えが見つかりやすくなります。

問十 おばあさんの語る住まいや縁側の話から、現代文明のあり方に話を発展させているのは、⑫段落です。現代文明がいかにより合理的であるからといって、長い歴史を経てつちかわれてきた伝統的な生活の知恵を、ただ古くさいという理由だけですべて投げ出すのはばからしいといっているのです。

問十一 「それは、老人だけではない」ということは、「それは」「老人」にとってもなのです。そこで、「老人」にとってもどうか、と問いかけながら前にもどって、その答えをさがしてみます。すると、直前に「縁側のないアメリカ式のモダンリビングは、日本の年寄りにあまりありがたくない」と言っている部分が見つかります。「それは、老人だけではない」とあるのですから、答えに「日本の年寄りには」を入れてはおかしいことになりません。

問十二 現代の日本の住まいに、アメリカ式のモダンリビングが多いということは、現代の日本人が、アメリカ式のモダンリビングを「便利なモダンリビング」だと思って求めたからです。その結果、伝統的な生活空間である「縁側」をなくしてしまい、「味気ない生活になりつつある」のだと、筆者は言っています。

問十三 この文章の内容を四つに分けてみると、次のようになります。

①・② ↓ 「縁」とその働きの説明

③ ↓ ⑥ ↓ 「縁は異なるもの」と言うことの説明
⑦ ↓ ⑨ ↓ 「縁は味なもの」と言うことの説明
⑩ ↓ ⑫ ↓ 「縁」についての筆者の主張

問一 1 イ 2 エ 3 ウ 4 ア

問二 ① イ ② C ウ D エ E ウ

問三 になろう。

問四 エ

問五 例 部屋から見れば吹きさらしの戸外であり、外から見れば屋根や庇もかかっており、板敷きの床もある建物の一部であり、純粹に外部空間とも内部空間とも言えないから。

問六 ア

問七 また、縁側

問八 例 縁側で針仕事や孫のお守りなどをしたり、庭に出入りしたりすることができる。また、外部の人々の様子を見ることもができるし、近所の人ともふれあうことができる。さらに、天候次第で、内と外とを切り離したり、つないだりすることができる。

問九 ア 安全で、しかも、快適な場所

イ 不便で、味気ないもの

問十 何百年の間まわっている

問十一 例 縁側のないアメリカ式のモダンリビングは、あまりありがたくないこと

問十二 便利

問十三 エ